

第30回  
日本国際保健医療学会  
学術大会 2015

jaih

# 国境なき医師団の目指すイノベーションと研究開発 ～人道援助のための新たなテクノロジーとアプローチ～

Photo: © ARIS MESSINIS/Mattnet

写真：MSFによるドローンを使った結核サンプルの輸送実験を見守る地元住民（2014年9月、バブアニューギニア）

## 開催日時

2015年11月22日（日）午前8:30～10:10

## 開催場所

金沢大学角間キャンパス 自然科学本館 第4会場 大講義室 B

## アジェンダ

座長：安藤 恒平（MSF 医師）

### セッション1 結核サンプル輸送のためのドローンの活用

アイザック・チクワナ（MSF 医師）、エリック・ブジョー（MSF プログラムマネージャー）

### セッション2 グーグル共同開発——タブレット端末を用いたエボラ臨床管理

イヴァン・ゲイトン（MSF マンソンユニット）

### セッション3 フィールドにおける研究開発のニーズと課題

京寛 美智子（MSF 看護師、MSF R&D ユニット）

### セッション4 MSF 必須医薬品キャンペーンの取り組み

鶴田 花子（MSF 必須医薬品キャンペーン）

※ セッション1-2は英語、セッション3-4は日本語で行います。

**国境なき医師団**（Médecins Sans Frontières=MSF）は、国際的な医療・人道援助団体で、紛争や自然災害、貧困や感染症といった理由で命の危機にある人びとの緊急性の高いニーズに応え、分け隔てなく医療を提供します。すべての活動は、普遍的な「医の倫理」、および中立・独立・公平といった人道援助の原則に基づいて行われます。MSFは途上国や被災地の人びとには質の低い医療でも仕方がないという考えを排除し、活動自体が難しい危険な地域においても高品質な医療の提供に努めます。MSFは技術革新や研究開発（R&D）が、患者の治療向上と、自らの医療活動を必要と  
ところへ届けるために不可欠であると認識しています。

このシンポジウムでMSFは、人道援助に資する最新の技術や手法、および研究開発のもたらす可能性が、医療活動の現場のニーズにどのように応えていくかについて考察します。



## その他の MSF 参加シンポジウム

### ■ Medicines for Health シンポジウム :

11月21日（土）午後2:00～4:00 第2会場 AV 講義室

**Focusing on Pharmaceutical Quality and Rational Use of Meds**

講演：エロディ・ジャンベール（MSF インターナショナル・ファーマシスト・コーディネーター）

### ■ DNDi シンポジウム グローバルヘルスの潮流：三大感染症、エボラ出血熱、そして顧みられない熱帯病

11月21日（土）午後5:00～6:00 第4会場大講義室 B

**Challenges in Responding to Epidemics: Ebola, Meningitis and HIV**

講演：クララ・ファンヒューリック（MSF 医師、代表一人道問題担当）